

## 生かせいのち

一年を振り返ってみると世の中色々のことがありました。各地での災害は、誠に気の毒でなりません。まもなく三年になるうとしています。東北では、まだまだ復興ができません。そんな東北へ元気づけ、多少でも力添えができれば、寿楽院総代の皆さんと宮城の塩釜、松島と瑞巖寺を研修し、そして世界遺産になった岩手の中尊寺、毛越寺を見学いたしました。

(十月二十八・二十九日)その時の一コマです。



比較的被害の少なかった工事中の瑞巖寺門前にて(上)、(左上)毛越寺浄土庭園「昔、曲水の宴を催す」を一周し当時を偲びました。(左下)中尊寺金色堂を背景にした記念写真です。



今年もはや十二月になりました。十二月のことを和名で師走(しわす)、極月(ごくつき)、雪見月(ゆきみづき)等といえます。

師走とは、経をあげるために師僧が東西を馳せ走る月であるところから名付けられたようです。

師走日和が続くといいいのですが、師走風で風邪など引かぬよう注意しましょう。

## 十二月八日 成道会

お釈迦様が悟りを開かれた日です。お釈迦様はインドのカピラ国の王子として生まれ、二十九歳の時、人生に疑問を持たれて王宮を出て六年間苦しい修行をされました。しかしどうしても悟りに至らず、或る日一人下山を下りて川で身を洗い清め、大きな菩提樹の下で座禅を組まれました。七日間座り続けて十二月八日の未明、心のなかの疑問が解消し、遂に清々しい悟りの境地に達せられたのです。

## 十二月三十一日除夜

夜を除くと書きますが、夜とはやみのことであり、煩惱のこともあります。この一年を顧みて反省し、新年からまた新たな気持ちで出発するのです。百八つの鐘の音は、百八の煩惱を意味します。

## 利益 (りやく)

人は、現実の生活苦からの離脱を求めて祈り続け、その恵みとして与えられた恩恵を、ご利益といっている。

しかし利益ということには、自分が利益を得るということだけでなく、他の人を益するということがなければならぬ。仏教では、仏の教えに生きて得られた恩恵を、自利・利他の益として明らかにしている。自ら利益を得ることは同時に、他の人を利益することでもなければならぬ。

## 仏教が生んだ日本語

## 空海の言葉 シリーズ

しゅうしゃ ようこと ぶんぶさいい

舟車、用別に文武才異なり

「性霊集」

●●● 舟は水の上を運ぶ役目があり、

●●● 車は陸の上を運ぶ役目がある

●●● 文官と武官とは異なった才能である。

弘法さんは、国がうまく治まっていくなかには、文官は文官の才能にたけた人が必要とし、武官は武官の才能にたけた人が当たるべきだ。と言われました。

昔から国を守るには、「仏法、鉄砲、女房」の三宝だといえます。

仏法とは、道理に基づいた法律、鉄砲とは言うまでもなく武力、女房とは経済です。

